

# JAMの主張

## 力を結集し「田中ひさや」の 勝利を掴み取ろう！

機関紙 J A M 2019 年 1 月 1 日発行 第 239 号新春号

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。組合員並びにご家族の皆様におかれましては、健やかなる初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

本年、J A M は結成 20 周年を迎えます。1999 年 9 月 9 日、J A M は九つの基本理念と九つの行動理念を掲げて結成されました。基本理念の一項目には次のように書かれています。

「わたしたちは、日本国憲法にのっとり、人間尊重を基本に、働く者の諸権利、自由と民主主義が保障され、社会的な不公平のない平等な社会の建設をめざして、民主的労働運動を推進します」。

残念ながら、政府与党には基本となる人間尊重の理念がないように感じられます。

「われわれは労働力を望んだが、来たのは人間だった」。

スイスの国民的作家、マックス・フリッシュの言葉です。日本にはすでに 128 万人の外国人労働者が働いており、中小製造業ではかけがえのない戦力となっています。一方で、奴隷のような労働を強いられている働く仲間がいることも事実です。まずは現実を直視しなければなりません。そして同じ働く仲間として当然守られるべき同等の労働条件を整備する必要があります。現状の改善なしに受け入れ拡大の議論を進めることは外国人労働者の人間性を軽視しています。

こうした一強政治のおごりを正すためにも、「田中ひさや」を国会に送り、中小製造業の現場を知る J A M の声を国会に届けていかなければなりません。

「田中ひさや」候補予定者は、文字通り全国を飛び回り、可能な限り多くの仲間の声に耳を傾け、政策を訴え続けています。私たちには 35 万人の仲間がいます。そして基幹労連 27 万人の仲間が「J A M 出身・基幹労連代表」の候補予定者として全力で選挙戦を戦ってくれています。62 万人の力を結集し、「田中ひさや」の勝利を掴み取りましょう！

最後になりましたが、国内外で働くすべての組合員とご家族の皆様にとって、2019 年が幸多き年となりますようにご祈念を申し上げ、ご挨拶と致します。

J A M 会長 安河内賢弘